

八ヶ岳 小同心クラック

【日時】 令和2年2月9日

【メンバー】 Y川 (L)、K

【概要】

9日 快晴～晴

前日は南沢大滝でアイスクライミングを楽しみ、鉱泉が満員のため赤岳山荘に宿泊した。夜は雪との予報であったため、出発は急がず5時半過ぎ発とした。ちらほらと粉雪が降っており、ヘッドランプを点けて北沢登山道を辿る。低温に関する注意が発せられているが、さほど低いとは感じられない。明るくなるにつれ上空の雲も少なくなり、鉱泉の手前では陽が射すこともあった。

鉱泉でインナー手袋のみで準備をしていると、右手中指の感覚がなくなってきた。慌てて冬用グローブを着用し、Kさんに気温を確認すると-20℃であった。予想外に冷え込んでいる。山はまだ雲がかかっているが、天気は快方に向かう予報のため、大同心稜を登ってから考えることとする。大同心稜の森林限界付近から上は、時折強い風も吹き付け、大同心は白く化粧しているがエビの尻尾が付いている様には見受けられないため、引き続き登って行く。間もなく青空が広がりだし、陽もあたりだした。小同心クラックに、既に1パーティ取り付いているのが確認できた。

大同心基部で気温を確認すると-24℃。天気は急速に回復し北アルプスも見えているため、小同心クラックを登ることとし、ギアを装着してバンドを辿る。細いバンドであり、気が抜けない。大同心ルンゼを横断し、先行パーティのトレースを辿り岩場基部をトラバースする。所々雪が不安定で、神経を使うトラバースであった。途中、ホールドにしようと思った岩の突起がボコッとはがれたりしたが、しっかり3点支持をしていたので無事小同心クラック取付に到着した。

寒い風が吹き抜ける中、登攀準備を済ませスタートする。岩の隙間に雪がつまっているためだろうか、思ったよりも残置ピンを見つけられず、慎重に登る。1つ目の終了点を過ぎ、2つ目の終了点で切ったが、この5mほど上が正規の1ピッチ目終了点であった。所々凍っている所はあるものの、怖さを感じるほどではない。2ピッチ目、右のクラックからチムニーに入り、チムニー出口で左に出て終了。3ピッチ目、出だしの猿の腰掛け岩を越えようと試みるが、腰掛け岩の上の壁に雪が付いており、怖くて持てなかったのであきらめ、引き続き右のクラックから登ることとする。肩に出て、右手の雪の斜面をトラバースし、凍った草付をダブルアックスで登って終了点に到着した。このすぐ上にも終了点があったが、ロープの流れを考えてここで切った。次はすぐ上の終了点を越して小同心の頭まで15mほどロープを伸ばし、ここでビレーした。

頭からはコンテで雪稜を辿り、横岳最後の岩場直下へ。先行者のトレースが岩場基部のバンドを右に行っていたので偵察してみたが、「何故こんな所を？」と思うような所を登っていたので戻り、直登ルートを登って横岳山頂に飛び出し登攀を終了した。

ここからは一般ルートとは言え、奥ノ院を通過するまでは気を抜けない。細い稜線は鎖が使えず、慎重に下って切り立ったトラバースを終えて一息ついた。風が強くて寒く、風が避けられる所まで下ってギアを片付け、簡単に食事を済ませた。時間に余裕はないため、休憩はそこそこにして出発し、苦しい硫黄岳の登りをこなし、赤岩の頭からの下降になってやっと強風から開放された。今日は終始-20℃以下の環境下で行動していたせいも、陽が当たると本当に暖かく、寒いとはいえ2月であることを感じた。最後はヘッドランプとなり車がすっかり少なくなった駐車場に帰着した。

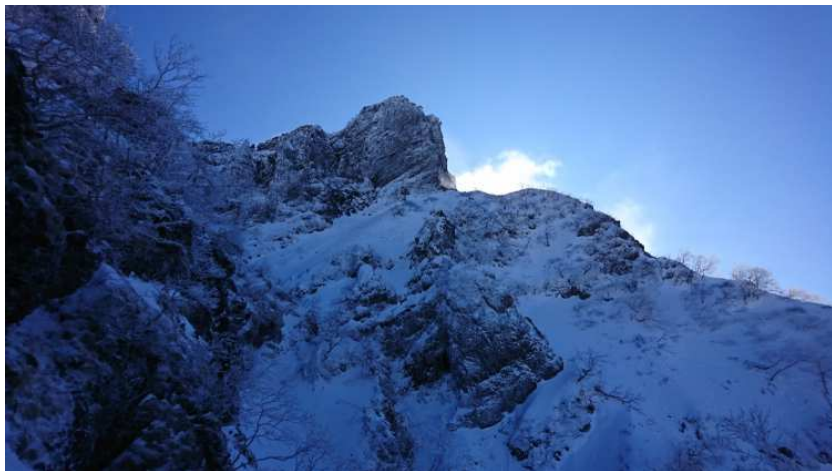
赤岳鉱泉 5時45分 赤岳鉱泉 7時30分～7時51分 大同心基部 9時36分～9時52分
小同心クラック取付 9時58分～10時20分 横岳 13時28～45分 硫黄岳 15時50分～16時
1分 赤岳鉱泉 16時45分～17時6分 赤岳山荘 18時24分



盛況の南沢大滝



大同心稜を登る



凍てつく小同心



横岳山頂より小同心の頭
低温でカメラが作動せず
登攀中の写真は無し